

実際にあったお話です。

夢に描いた家を35年後に実現した奥様のお話です。

19歳の時に初めて米国を訪れ、ホームステイした白い素敵な家での体験、それは感動の連続で忘れられない思い出となりました。そして白い家は、奥様のドリームハウスとなりました。

それから35年の間、「いつかドリームハウスに住みたい」、「あの白い家での楽しかった時間を、自分の家で味わいたい」という強い思いを抱き続けた奥様の人生には、家を建てる機会が三度巡って来ました。

一度目は10年以上前、二度目は数年前。しかし二度の機会とも、計画が始まる段階で流れてしまったのです。その時は、「どうして2回もこんな風に土地の購入や家の建設が進まないのか？」と落ち込んだそうです。家は一生の買い物、気持ちの入り方も半端ではないはず。その落胆は、どれほど大きかったことでしょう。

しかし、途中で流れてしまったこの二度の機会が、ドリームハウスを実現する出合いに繋がったのです。それからしばらくして、たまたま見たフリーパーパーに掲載された住宅の広告に目が釘付けとなりました。その誌面には、奥様の理想とする米国を想像させる家が写っていたのです。

その時、「こんな家が三河でも建てられるんだ」と驚いたそうです。それからすぐ、フリーパーパーに載っていたモデルハウスを訪問し、玄関の扉を開け室内に入った瞬間、憧れの米国の家の思い出が蘇りました。そして「これこそ私が望んでいた家、ここしかない」、そう心の中で思ったそうです。

それから3年後、望んだ通りの家を手に入れられました。

少し不思議なことがありました。設計士から初めて提案された図面を見て驚いたことがあります。それは、提案された図面に書かれていた外観が「いつか住みたい」と思い続けた米国のドリームハウスにとっても似ていたのです。なぜ驚いたかという点、ドリームハウスは憧れだったことから、マイホームの計画をスタートした時点では、具体的な情報は設計士に伝えられていなかったのです。19歳から思い続けたことが何かの力となって、ドリームハウス実現へ導く力になったような気がします。

二度家づくりを見送ることになったその時は、相当悲しかったはずですが。しかし、その二度の出来事がなければ、思い続けた家を手にはなかったことでしょう。

19歳からのドリームハウスの思い、それから35年後の実現。望みが叶った素敵な白い家で、奥様は毎日楽しくイキイキと幸せに暮らしています。

